

宿縁

一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七—三七二—〇二九二
FAX 〇四七—三七二—〇二六一

深きを知ることの 難しさ



新しい年のいのちをいただきました。日々
新たないのちに合掌しなければなりません。
感謝の反対は「当たりまえ」と思う心です。
暮れから正月にかけて遠藤周作の小説「深
い河」を読み、「深さ」という言葉の意味に
ついていろいろと考えさせられました。
小説の中では、人生の岐路で死を見つめた
人々が、過去の重荷を心の奥にかかえなが
ら、「深い河」つまりインドの聖なるガンジ
ス河のほとりに立ち何を思ったかが主題と
して描かれています。

インド教ともいわれるヒンズー教徒にと
ってヴァーラーナシの町ガンジス河は聖
なる地とされ、富める者は汽車や車で貧し
い者は徒歩で、この町を目ざして巡礼して
きます。彼等の信仰によればガンジス河の
聖なる水に浸る時はすべての罪障は浄めら
れ、その死体の灰を河に流されれば輪廻(り
んね)から解放されるのです。河の水は決して
清らかなものではなく、男子は半裸で、
女性はいろいろなサリーを身につけたまま
全身を水に浸し口をそぎ頭を洗って合掌
を繰り返すのです。輪廻転生(てんしやう)
と云って、善き行為によつて善き世界に生
まれることを祈りとする宗教的儀式なので
す。それらの光景は観光客にとつては雑多
なものが流れる河での沐浴は異様で穢いと
いう印象ですが、罪障を滅したくないという真
剣な宗教心からすれば深くうなづかせるも
のが奥に感じられるのも事実です。
現代人の科学的・論理的な識別で生きよ
うとする考え方では人間の罪業とか罪障と
いうものはなかなか自覚されません。
まさかの出来事や災難に遭遇する時、よ
く「私は何も悪いことはしてないのに」と
いう言葉を耳にしますが、皆さんはどのよ
うに思いますか？
仏教では仏の慈悲を求め、その救いに触
れるところに、わが身の犯してきた罪を悔
い改める、すなわち懺悔(さんげ)することの

重要さをいいます。キリスト教ではザンゲと
読んでいますが、他の宗教でも内容的にはほ
ぼ同じ意味だと思えます。

仏教では、日本に仏教が伝わってきた当時
から「懺悔文(さんげもん)」と云って次の言
葉を読経の前に拝読することが行われてい
ました。

「私が昔から作ってきたいろいろな罪業は
遠い過去から積み上げてきた貪り・怒り・
愚かさの三毒によるものです。それは、体
で行った・話した・思ったというものから
生まれたのです。私は今、それらすべてを
仏の前で懺悔します。」

この言葉でもわかるように、私が善悪の判
断がつくようになってから意識的に犯して
しまった罪だけではなく、それより以前にそ
れとは知らずに犯してしまった罪も悔い改
めようとするものです。ここには、自分が意
識して犯したのではないような「無意識に
犯した罪」についても、自分の身が引き受け
て悔い改めようとする深い洞察からの自己
への目覚めがあります。

親鸞聖人はわが身を「罪悪深重(ざいあく
じんじゆう)の凡夫」とか、「煩惱熾盛(ぼん
のうしじよう)の衆生」と称して、煩惱の極
めて盛んなゆえに罪深く悪重(あくじゆう)存在である
と申されています。ところが私たちにとって
なかなか煩惱の自覚は難しいものです。最も
自分に身近なものが、意識の上からはいちば
ん遠いわけです。ましてや日常生活の中で、
見るもの聞くものに心を奪われ続ける、そし
て次から次へと自分の心の中に起こって
くる煩惱に使われて、煩惱のおもむくままに生
きているという生活にあつては、煩惱を煩

悩と自覚することは非常に困難です。何かあ
る照明を受けないと、自分自身の持ちもので
ありながら、煩惱の存在が自覚できません。
自分の愚かさ、罪深さが自覚されるのは、煩
悩は誰にでもあるものだという、単に人間一
般の話ではなくて、心の内における深い自覚
はやはり目覚めた人の言葉(仏さまのお心
に宿る真理に触れることがあつて初めて生
ずる自覚です。

「ああ、悪かった、申しわけなかった」と
いう徹底した懺悔の心は、眼からも体じゅう
の皮膚からも血を吹きだすようなものだと
聞きますが、私たちが普通「ザンゲしました」
などといっていることは懺悔の内にも入ら
ない、単なる一時の反省にすぎない。と善導
大師は人間の起こす本当の懺悔心はできが
たいものだと思えられました。そして深い心
の据わりは如来のお心のまことの深さ「信」
の二種を据わりとすることで常に二つのも
のではなく一つの具わりだと示されました。
一つの据わりは、自身はこれ現に罪悪生死
の凡夫、曠劫よりこのかた、つねにしづみ
つねに流転して、出離の縁あることなき身と
知る。二つには、かの阿弥陀仏の四十八願は
あらゆるものをそのまま摂めいれてくださ
っていることを知り、そのお力(はたらき)に
身を託するのだ、と念仏道を明かされまし
た。ここで決して間違つてはならないのは
託するというのは、心の根本的な変革です。
今まで自我中心で生きてきた身が、仏の真心
に投げ入って、自我が死んで、新しい自己、
つまり仏の世界に属するような心をもつて
生きる身となる、そういう浄土のいのちを生
きるという大きな変化です。

【寺灯雑記】

○新年を迎える準備に境内の清掃奉仕

12/28

暮れも押し詰まって家々では新年の準備に気忙しいなか、お寺の清掃奉仕に有志13名がお出でくださいました。

少し寒さが和らいだとはいえ本堂や山門からの石段・参道、向拝等を冷たい水をホースとブラシ、たわしを使つての作業は大変なこと。ほんとうにご苦労さまでした。

○清々しい元旦修正会の参拝

1/1

仏暦2560年の年明けは、早朝の静けさが凜と漂うなか、8時に打ち鳴らされた行事鐘を合図におよそ80名の参詣者とともに元旦修正会が勤められました。

正信念仏偈が唱和され、元旦章が拝読されて更始一新して報恩謝徳の念厚くご法義繁盛に努める誓いをいたしました。その後、ご住職と前住さんから年頭法話をお聞きし、阿弥陀如来の尊前に注がれた清酒のご流盃をいただき新年を祝いました。

聞法会館では名物の白みその京都風お雑煮が振る舞われ、ひと時お互いに新年の挨拶を交わしました。

○婦人会が年次総会と新年会を開く

1/7

平成29年度の婦人会年次総会は34名が出席して開かれました。

いつものように先ず親鸞聖人ご正法要として、ご住職の調声で正信偈をお勤めしてから総会に移りました。

総会の議事は28年度の事業・会計報告が、そして29年度の事業計画案・予算案が示され全会一致で承認されました。

また、新年会では篠田国代さん、前田奈美恵さん、水澤幸子さんらによる日本舞踊が披露され華やかさを増しました。

次いで期待？の前住さんが「春風亭負太」の落語家名をのって「短命」の演目でご機嫌をうかがいました。昨年からの色襟の襦袢の和服姿も芸人風と好評で、すでに壮年会から新年会でのオフアームもあるとか。その後のクイズやゲームも一段と賑やかな新年会となりました。

○聞法会館外壁等修復工事の予定

先月の宿縁・寺灯雑記欄でも予告をしましたが、いよいよ今月23日から聞法会館外壁等の修復工事のための足場設置工事が始まることになりました。

会館が竣工して13年近くが経ち、周期的な修復をしておいたほうが得策との見方から、このたびその工事に入るようになりました。

隣接する駐車場使用で多少ご不便をおかけしますが、工事作業は外回りですので内部には及びませんからご法事などのお参りには殆んど影響がありませんからご安心ください。工期は3月いっぱいのご予定です。

【平成29年の年回表一覽】

- ・一回忌 平成28年往生
- ・三回忌 平成27年往生
- ・七回忌 平成23年往生
- ・十三回忌 平成17年往生

- ・十七回忌 平成13年往生
- ・二十三回忌 平成7年往生
- ・二十五回忌 平成5年往生
- ・二十七回忌 平成3年往生
- ・三十三回忌 昭和60年往生
- ・五十回忌 平成43年往生

右の年回表が今年ご法事にあたりますので、亡き方々を偲びつつ尊い仏法を聞くご縁を結んでください。

【伝灯奉告法要団体参拝の旅！】

*期日 五月十五日(月)〜十七日(水)

(二泊三日)

- ・旅程 東京駅新幹線で京都本山法要参拝
- ・御琴温泉泊
- ・福井東尋坊〜吉崎御坊〜山代温泉泊
- ・金沢別院〜兼六園〜金沢駅北陸新幹線東京駅。
- ・旅行代金 七万九千円
- ・募集人員 二十名(当寺募集人員)
- ・締切日 二月末日

(旅行代金を添えてお申込み下さい)

本願寺第二十五代光淳門主の伝灯奉告法要は昨年十月一日から本山で始まり、本年の五月三十一日まで八十日間十期にわたり修行されています。このご勝縁に遇い、喜びを共にするため各地から団体参拝が組まれています。

そこで当寺としては五月十五日の法要に千葉組の団体参拝に加わって参拝することになりました。参加人数に限りがありますが是非ご参加をお待ちしています。

【法座・行事案内】

○常例法座

一月二十一日(土) 一時

講師：前住職「信に死し願に生きる」

○門信徒会役員会

一月二十一日(土) 三時半

○壮年会総会・新年会

一月二十八日(土) 二時半

○婦人会法座

二月四日(土) 一時

「歎異抄後序を学ぶ」

法座終了後、渡部喬子さん指導による希望者のヨガ体操があります。

○築地本願寺の常例布教

二月十日(金)〜十二日(日)まで

当寺住職が出講いたします。

○壮年会法座

二月十一日(土) 三時

「法語カレンダー」(心に響くことば)

○常例法座

二月十八日(土) 一時

講師：柏倉学法師(我孫子 真宗寺)

○いのちの居場所を考える会

二月二十三日(木) 十時半

講師 清水博先生(NPO法人場の研

究所所長)を囲んでの座談会

○和讃に学ぶ(高僧和讃)

二月二十五日(土) 三時

【一月の掲示板のことば】

それぞれに かけがえのないいのちの輝きがある 香りがある